

これからの上下水道事業運営の課題と展望

Tasks and Prospects for Future Business Activities in Water Supply and Sewerage Field

上下水道施設は、都市部のみならず農山村においても、私たちの生活にとって欠くべからざる社会基盤です。

今日では、全国民の97%以上が水道を利用しています。もはや、水道のない生活は考えられなくなりました。水道施設は、水源から蛇口に至るまで、様々な土木構造物、機械、電気施設、パイプなどで成り立っています。浄水場では、濾過(ろか)や沈殿の過程で、生物・物理・化学的な処理を施しています。まさに水道施設は、電気をはじめ今日の科学技術をふんだんに取り入れた総合施設です。特に、わが国の水道は、そのまま蛇口の水を飲んでも安全です。世界でこのような水道を持っているところは、そう多くはありません。

ほぼ全国に行きわたった水道は、今日多くの課題を抱えています。水質面では、浄水場での微量有機物質や微生物の除去などがあります。また、水道は市町村ごとに建設、管理されていますので、小さな水道が数多くあり、維持管理が問題です。いくつかの水道の合併と広域化は、これからの大きな課題です。民間委託による効率的な経営管理も進めなければなりません。

一方、下水道は、水道水として使われた後の排水や雨水などを集め、浄化して自然界に還元する役割を持っています。トイレの水洗化は、私たちの生活を便利にしています。台所などの家庭雑排水は浄化することにより、河川などの水質を改善しています。普及は水道より少し遅れ、現在65%です。残りは、農村集落排水や合併浄化槽などの建設とバランスを取りながら、国民皆下水道を目指さなければなりません。

下水道施設も水道と同様、総合的な施設です。これからの課題は、普及の促進はもちろんのこと、家庭排水も道路などの雨水もいっしょに処理している合流式から、雨水は別に集める分流式に改めなければなりません。より高度な処理を施して、自然界に戻すこともたいせつです。処理した水の有効利用も考えなくてはなりません。これをもう一度使えるようにすれば、りっぱな資源です。

上下水道が別々に計画、建設されるのではなく、河川を含めた水の総合管理の中で考えなくてはなりません。これを進めるには、まさに技術の総合力が要求されます。

今回、上下水道について特集を組まれたことは、転機にある上下水道を考えるうえで、時宜を得たものであります。



坂本 弘道
SAKAMOTO Hiromichi